

令和3年2月定例会 総務委員会
令和3年3月9日（火）
〔委員会の概要 経営戦略部関係〕

浪越委員長

ただいまから、総務委員会を開会いたします。（13時04分）

直ちに、議事に入ります。

これより、経営戦略部関係の調査を行います。

この際、経営戦略部関係の追加提出予定議案について理事者側から説明を願うとともに、報告事項があればこれを受けることにいたします。

【追加提出予定議案】（提出予定議案（追加）、補正予算案の概要（追加分・第12号）、説明資料（その5））

○ 議案第87号 令和2年度徳島県一般会計補正予算（第12号）

【報告事項】

なし

板東経営戦略部長

2月県議会定例会に追加提出を予定しております案件につきまして、お手元の令和3年2月徳島県議会定例会提出予定議案（追加）により御説明いたします。

閉会日に追加提出いたします案件は、補正予算案1件、条例案1件、人事案件3件、その他議案1件となっております。

第88号の条例制定につきましては、新型インフルエンザ等対策特別措置法の一部改正等に伴い、関係条例について所要の整理を行うものであります。

また、2月24日の総務委員会におきまして御説明いたしました「未知への挑戦」とくしま行動計画の変更に係る第89号議案に加えまして、第90号議案から第92号議案につきましては、監査委員、収用委員会委員及び予備委員並びに海区漁業調整委員会委員に係る人事案件となっております。

補正予算案につきまして、お手元に別途お配りしております令和2年度2月補正予算（案）の概要（追加分・第12号）を御覧ください。

1ページを御覧ください。

今回の補正予算案につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響により厳しい状況にある飲食店の感染防止対策を支援する応援金の増額や美馬市で発生した高病原性鳥インフルエンザへの対応のため、発生農場周辺の養鶏農家に対する出荷制限に係る補償の実施、鳥インフルエンザ発生時の防疫措置等に使用した危機管理調整費の補充など喫緊に対応すべき事項について編成いたしました。

また、今回の補正財源として活用するため、二十一世紀創造基金積立金の減額補正を併せて行います。

補正予算の規模といたしましては、1、一般会計予算の総額にありますとおり、9,692

万円を計上いたしております。

資料2ページをお開きください。

今回の補正に係る歳入であります、(1)に記載のとおり、国庫支出金となっております。

また、歳出につきましては、(2)に記載のとおり、総務費及び農林水産業費におきまして補正額を計上いたしております。

歳出の性質別の内訳につきましては、3ページに記載のとおりでございます。

追加提出予定案件の全体状況につきましては、以上でございます。

続きまして、経営戦略部関係の提出予定案件につきまして、お手元の総務委員会説明資料(その5)により、その概要を御説明申し上げます。

資料1ページをお開きください。

一般会計補正予算につきましては、(1)歳入歳出予算のア、総括表の一番下、総計欄の左から二つ目の数字の欄でございますが、今回の補正額が24億5,808万円の減額で、補正後の合計額は、その右隣でございますが、監察局・出納局及び諸局を含めまして1,244億6,147万2,000円となっております。

2ページをお開きください。

イ、課別主要事項につきましては、財政課におきまして、二十一世紀創造基金積立金に係る経費の減額となっております、内容につきましては、先ほど御説明申し上げたとおりでございます。

以上で、提出予定案件の説明を終わらせていただきます。

なお、報告事項はございません。

御審議のほど、よろしくお願い申し上げます。

浪越委員長

以上で説明は終わりました。

これより質疑に入りますが、質疑につきましては、追加提出予定議案に関連する質疑にとどめたいと思いますので、御協力をよろしくお願いいたします。

また、先ほど開会された議会運営委員会において、追加提出予定議案については、本日の委員会で十分審議の上、明日の本会議においては、委員会付託を省略して議決することが決定いたしておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、質疑をどうぞ。

立川委員

令和2年度2月補正予算案の概要や先ほどの部長の説明をお伺いしますと、今回の補正額は9,692万円ですが、中身を見ますと飲食店の応援金に約23億円、高病原性鳥インフルエンザの緊急対策事業に700万円、危機管理調整費の補正が2億1,600万円、合計で約25億円の増額補正となる一方で、二十一世紀創造基金積立金を約24億円減額しております、この差引きが今回の補正額ということになっております。補正の理由や財源構成についてもう少し詳しく教えてください。

岡財政課長

立川委員より、今回の補正の理由及び財源構成について御質問がございました。

閉会日に追加提案させていただく補正予算につきましては、この度の緊急事態宣言時に感染対策の急所とされた飲食店の新しい生活様式の実装を支援する応援金制度について、申請総額が既決予算を大幅に上回る見通しとなったことから、これを増額する経費として23億3,200万円、また、先般美馬市で発生した高病原性鳥インフルエンザへの対応として、出荷制限に係る補償に700万円、さきに、消毒ポイントの設置や防疫措置に掛かる経費として緊急的に対応させていただいた分の補充として、危機管理調整費に2億1,600万円を計上し、総額25億5,500万円の増額補正をお願いするものです。

一方で、今回の補正予算の財源としましては、鳥インフルエンザ関係の経費につきましては国庫支出金9,692万円を活用しておりますが、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金については、既に本県に配分された限度額の上限まで活用している状況にあるほか、一般財源につきましても、2月18日に提案させていただきました第11号2月補正予算において、地方交付税が当初予算額を上回った分や令和元年度からの繰越金などにより生じた一般財源を基金へ積み戻す補正を行っており、現時点で活用できる財源がない状況にありました。

そこで、さきの補正で二十一世紀創造基金に積み立てることとしていた37億9,269万円のうち、24億5,808万円の積立てを取りやめ、減額補正することにより一般財源を今回の補正予算に活用させていただいたものでございます。

立川委員

今の答弁にもございましたけれども、さきに提案している2月補正予算第11号で捻出された一般財源を二十一世紀創造基金に積み立てる予定だったものを取りやめて、財源の捻出を図られたということですが、それではその結果、二十一世紀創造基金の残はどうなっておりますか。

岡財政課長

立川委員より、二十一世紀創造基金の残高について御質問がございました。

今回、二十一世紀創造基金への積立てを一部取りやめた結果、令和2年度末の残高が約181億円と令和元年度末、昨年度末残高の190億円と比較して約9億円の減額となる見込みでございます。

二十一世紀創造基金は、二十一世紀の県政発展の基盤となる施設整備等に充てるため、平成14年度から設置している基金でございますが、県立学校施設の長寿命化をはじめ、ハード整備を中心に幅広い事業に活用しております。

さきに提案しておりました補正予算では、県立ホールをはじめ、今後の大規模施設整備に備え、基金を今年度末で約206億円に積み増すこととしておりましたが、緊急事態宣言の延長など新型コロナウイルス感染症の影響による現下の厳しい経済情勢を踏まえ、まずは県民の皆様の業と雇用の維持、安全・安心の確保を優先する観点から今回積立てを一部取りやめ、直ちに必要となる施策の財源として活用させていただくこととしたものでございます。

なお、二十一世紀創造基金の残高確保に向けましては、主な原資である宝くじの収益金の着実な積立てを行うことはもとより、執行段階において、より少ない効率的な経費の活用による全庁的な経費削減を図り、可能な限りの残高確保に努めてまいりたいと考えているところでございます。

立川委員

鋭意取り組んでいただきたいと思います。

このコロナ禍においては、何よりも県民の皆様の事業継続や安全・安心の確保が最優先だと思いますので、適切な処置ではないかと思えます。

一方で、知事も今定例会の一般質問で我が会派の山西議員の質問に中長期的な財政運営にも配意する必要がある旨の答弁をされておりましたが、これによる財政健全化への影響というのではないのでしょうか。

岡財政課長

立川委員より、今回の補正による財政健全化への影響について御質問がございました。

新型コロナウイルス感染症への影響は更に長期化することが懸念され、今後も感染症の状況に応じた機動的かつ切れ目のない対策が求められます。

一方で、経済の長期停滞により、国、地方の税収見通しは依然として不透明であり、収支差を埋めるためのいわゆる赤字県債の発行が原則として認められていない地方公共団体においては、新型コロナウイルス感染症対策を進める上での財源確保が大きな課題となっております。

このため本県においては、三位一体改革による地方交付税の大幅削減やリーマンショック時の大幅な税収減など過去の事例も踏まえ、大幅な歳入減や不測の支出増加にも対応できるよう、財政構造改革基本方針において財政調整基金と減債基金を合わせた、いわゆる財政調整的基金の残高について令和4年度末まで800億円を堅持することとしているところでございます。

今回の追加補正予算におきましても、この基本方針の考え方にに基づき、今後の財政事情や税収等の下振れリスクに備え、令和2年度末において可能な限り800億円の残高を維持することを基本に財源調整を行った結果、二十一世紀創造基金の減額補正により財源の捻出を図ることとしたものでございます。

新型コロナウイルス感染症の影響により、国、地方財政を取り巻く環境は予断を許さない状況にありますが、今後とも中長期的視点に立って、一般質問において知事から御答弁申し上げたとおり政策提言を通じた更なる財源確保など、持続可能な財政運営に努めるとともに、新型コロナウイルス感染症対策や自然災害への対応など危機事象発生時には改革目標にかかわらず、必要な対策に柔軟かつ機動的な予算措置を行ってまいりたいと考えているところでございます。

立川委員

令和3年度の税収見通しも不透明ですので、今後の歳入不足にも備え、財政調整的基金の残高を確保されたということで、今後の財政運営にも十分配慮された補正予算になって

いるということを承知いたしました。

新型コロナウイルス感染症については、待望のワクチン接種も始まりましたが、長期にわたる経済活動の停滞によりまして大きな打撃を受けた県内経済の回復にはしばらく時間が掛かるとおられます。今後の感染状況によっては更なる追加の対策が必要となってくることも予想されます。

理事者におかれましては、今後も刻々と変化する状況に的確に対応した施策を切れ目なく展開していただきたいと思っておりますので、是非そのための財源確保や将来を見据えた持続可能な財政運営に、より一層努められることをお願いいたしまして、質問を終わりたいと思っております。

山田委員

もう一度確認も含めて教えてほしいのです。

2月の付託委員会で、確か岡課長から令和2年度末の二十一世紀創造基金の残高が206億円になると、令和元年度の190億円から16億円を積んだという報告がありました。

それで、先ほど話のあった新ホール整備や国府支援学校など大規模プロジェクトが今後目白押しなので、将来のそういった負担をとという趣旨のことを答弁されたと思っております。

2月の付託委員会ですから、その時点で例えば応援金の動きについても当然視野に入っていたのではないかと。知事のほうから財政調整的基金の取崩し等々も視野に入れてというふうな記者会見もあったので、私は付託委員会の時にも聞いたのです。

なぜ、こういうふうな運用になったのかについてお聞きします。

岡財政課長

今回の財源構成で、二十一世紀創造基金の積立てを一部取りやめた理由等について御質問がございました。

まず、知事が記者会見で申し上げた時には、恐らく基金の活用ということで、財政調整的基金の活用かどうかというところは言及がなかったのではないかと記憶しているところでございます。財源は、基金等を活用しながら必要な対策をやっていくのだというところが、知事の記者会見での発言であったのではないかと記憶しております。

それを踏まえて、今回なぜ二十一世紀創造基金の積立てをやめたのかというところがございます。財源の話でございますので、財政調整基金を取り崩して充当するのか、二十一世紀創造基金の積立てを止めるのか、ほかにもいろいろもしかしたらあるのかもしれませんが、大きくこの二つの手段があるのかなと思っております。

先ほども答弁したのですけれども、やはり財政調整的基金については今後の税収がどうなっていくのかというのが非常に不透明な中で、財政構造改革基本方針があって、この中で800億円は持っておこうというふうに、理事者のほうで意思決定をして持っている方針というものがあまして、これに沿うべきであるというのが1点かと思っております。

もう一つは、もちろん大規模プロジェクトが目白押しではございますが、新型コロナウイルス感染症という喫緊の課題にしっかりと対応していくためには、今しっかりと財源を使っていかなければいけないということで、二十一世紀創造基金の積立てを一部中止するという決断をしたところでございます。

山田委員

今、岡課長からそういう答弁があったのですけれども、先ほども言ったように2月の付託委員会の時点では、応援金をはじめとしたこの動きは、当然視野に入っていたと思うのです。

しかし、今回、二十一世紀創造基金のほうへ変わった。ある人から新ホールを身の丈に合ったホールに切り替えていくためのスタートかという議論もあったのですけれども、そのあたりのいろいろな疑問が出てきます。

大規模プロジェクトを控えていると2月の付託委員会のこの場所で岡課長が言ったのです。それから数日たってこういうふうに変更になったということについて、我々に分かりやすくしてもらわないと。どんな議論があってこういうふうになったのかということについて、説明をしっかりとやってくれますか。

岡財政課長

なぜこういう財源調整になったのかというところでございます。

時期の問題ももちろんございます。2月補正の、特に整理予算の部分につきましては、編成時期が1月中くらいで、歳入の見通しや歳出の見通しを全部整理して、その段階でこういうふうに使っていこうと決めていきます。1月補正で応援金を御議決いただきましたが、あの時点では既に2月補正の整理予算について、議会のほうに提出する準備がされていたものでございます。その編成時期の違いというのがやはり大きいところかと思えます。

今回の追加補正につきましては、2月に入ってから、もちろん付託委員会の段階では一定程度の方向性はあったところかと思いますが、整理予算と今回提出する補正予算の編成時期が大きく開いていましたため、どういうふうな財源構成にしていくのかというところを想像するのがなかなか難しかったところでございますので、今、繰り返しておりますような、整理において二十一世紀創造基金の積立てを中止するというところになったところでございます。

財源ですので、どこから出すのかということは大きいものですが、出す金の量は同じですので御理解いただければと思っております。今回の積立てを中止するからといって身の丈に合ったホールうんぬんという議論にはちょっと当たらないのかなと思っております。

山田委員

大規模プロジェクトを一定の身の丈に合ったような格好にしていくということも必要なので、僕自身はこれに反対するつもりはないし、大いにやってくれたら結構なのですけれども、そういう声をしっかりと受け止めてほしいなと思えます。

それと前の付託委員会の時に、財政調整基金が130億円、減債基金で671億円、それで800億円と言われました。今後、新型コロナウイルス感染症対策で新たな財政出動が必要になった場合は、基金の取崩しも視野に入れて対応したいというふうな発言をされました。今後6月補正までに、どういうふうな事態になるかは分からないけれども、仮にそう

いった場合には、二十一世紀創造基金ではなく、例えば財政調整基金を活用しながら、予備費等々も活用しながらというふうな、新たな体制に整える、その財源に充てるという理解でいいのでしょうか。

岡財政課長

今後の新型コロナウイルス感染症に対する財源について御質問がございました。

緊急事態宣言が2週間延長されたり、変異株が入ってきたのではないかというような議論もありまして、今後どういった支援や事業をやっていくのかというのは、なかなか現段階では見通すことができません。必要に応じて必要な施策を行っていく必要があると思っております。

財源については、新年度になればいろいろと取り得る手段がございますが、2月補正ですと整理補正で一般財源の処理が基本的には終わっているのです、なかなか頭を悩ませるところです。新年度になれば、財政調整基金であれ、二十一世紀創造であれ、例えば繰越金を使うなど、いろいろと手段がございます。山田委員の御心配、お気持ちは十分受け止めるのでございますが、必要な事業についてはしっかりと行っていけるように、財源については皆様から御心配いただかないように、しっかりと予算編成を行ってまいりたいと考えているところでございます。

山田委員

もうこれで質問を終わるのですけれども、800億円堅持ということと言われたわけです。私自身は新型コロナウイルス感染症対策では、まだまだ課題がたくさんあると思っております。

例えば、応援金が出ましたが、応援金が届かない仕出し屋さんを含めたほかの分野の皆さんから、なぜうちの所には来ないのかという声が寄せられています。

そういうことから見たら、とても十分とは言えない対策になっているので、県民の皆さんの切実な要望、コロナ禍の中で暮らしを守るのと、PCR検査にしても非常に少ないという状況がありますので、そういうところに思い切って財政調整基金なども活用してもらって、やって行ってほしいと思うのですが、岡課長、この辺はどうですか。

岡財政課長

もっと新型コロナウイルス感染症対策をやっていくべきではないのかということでございます。

いろいろと支援のやり方等が課題になっているところもございます。例えば今回の件で言うと緊急事態宣言の対象になった県については飲食店の時短の支援金がたくさん出るとか、飲食店だけではなく、その周りを構成するような取引業者に対しても支援する制度が設けられた一方、緊急事態宣言の対象にならなかった所については、そういった支援がないということです。しっかり抑え込んでいるにもかかわらず、言い方はどうか分かりませんが、不公平であるというような言い方もできるような制度になってしまっているところでございます。

経済へのダメージというのは、日本全国どこでも起こっているところでございますの

で、こういった所について国にしっかり政策提言して、財源を頂いて、しっかりと新型コロナウイルス感染症対策をやっていくと同時に、必要な所には、県自前の財源も活用しながらしっかりと取り組んでいきたいと考えているところでございます。

浪越委員長

ほかに質疑はございませんか。

（「なし」と言う者あり）

それでは、これをもって質疑を終わります。

以上で、経営戦略部関係の調査を終わります。

これをもって、総務委員会を閉会いたします。（13時28分）